

CSR REPORT 2020

NIKKEI PRINTING INC.

特集

コロナ禍で 考えた



コロナ禍で
考えたこと
実行したこと
気付いたこと

ピーチェーン

コロナ禍で視点を变えてみた

「スペイン風邪」のパンデミックから百年、近年では「豚インフルエンザ(新型インフルエンザ)」の記憶が新しい。今年、「新型コロナウイルス」による未曾有のパンデミックが、人命はもちろん企業の命、そして全世界をも呑み込む猛威を振るっています。

新型コロナウイルスに罹患された皆さまと、そのご家族に、心からお見舞い申し上げます。また、医療の現場で懸命に対応される医療従事者と関係者の皆さま、私たちの生活を支える仕事に携わる皆さまに心から感謝申し上げます。恐怖と不安のコロナ禍ですが、頭を抱えてばかりはいられません。アフターコロナ、ニューノーマルを見据えた動きが急務になります。そこで、少しでも胸を張れる自分たちの強みを探してみました。

今まで当たり前だったことが、
自分たちの優位点に見えてきた。



「期待通り」

「期待以上」

未来をサポート

- リスク管理
- コンプライアンス
- 行動規範・ハラスメント等の企業倫理規範
- CSR 社内浸透
- SDGs 社内浸透
- 統合・CSR 報告書
- セミナー
- SDGs 推進

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



特集 コロナ禍で考えた1

新型コロナウイルス感染予防対策

コロナグッズ開発とコロナ禍での働き方



抗菌マスクケース

使用中のマスクを外したとき、予備のマスクを持ち歩くとき、収納するマスクケース。抗菌PPシートに印刷後、さらに抗菌ニス加工でW抗菌！表面も中面も抗菌仕様です。
※滅菌効果はありません。また、新型コロナウイルスを無効化するものでもありません。



コロナ禍の「禍」は「か」と読みます。

訓は「わざわ(の)」「で」「災い」と同じ読みになります。災は「天災」に使われるように、人力では止められない災害を表し、「禍」は、人の手で止められる災いとして使われています。マスク、手洗いをし、三密を避け、またさまざまな活動の自粛など、感染予防対策に努力して取り組み、特効薬やワクチンができるまで、ウィズコロナでできることを考え、実行し「禍々しい(まがまがしい)新型コロナウイルス」から身を守っていかねければなりません。

社会の安全、社員、そして家族の安全を第一に考え、私たちは、グループと協力しあい、感染予防グッズを作りました。また、社員の身を守る働き方への対策はもちろん、各事業所をクラスター(集団感染)化させない取り組みを現在も継続しています。(令和2年11月現在)

特集1では、新型コロナウイルス感染予防グッズ「コロナグッズ」と、コロナ禍での働き方をご紹介します。



手洗い週間啓発シール&スイングポップ

ご家庭や店舗で、また社内の啓発アイテムとしてもご利用いただけます。シールは剥がしやすいうちに再剥離糊を使用しています。水に強いPET製です。

受注産業に緊急事態「御用聞きに行けない！」

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言下では、お客さまのところへ脚を運ぶことができなくなるため、WEBでの情報発信を強化しました。営業推進部を中心に、コロナグッズを開発するとともにWEBでの情報発信「Nikkei! Solution」を開設しました。コロナ感染予防対策以外にもお客さまのお役に立つソリューションをご紹介します。

お客さまに最適なソリューションを

Nikkei  **Solution**

<https://www.nik-prt.co.jp/solution/>



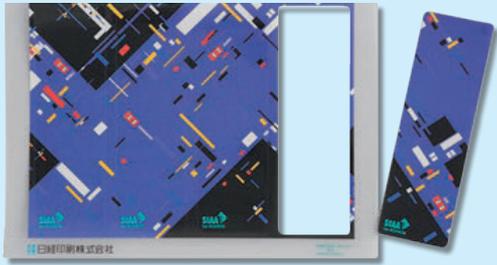


テーブル消毒済み
ミニのぼり



フェイスシールド

「FLOORWINDO®」視線誘導用フロアマット
中身を容易に入れ替えることのできるフロアマット「FLOORWINDO®」。
ソーシャルディスタンスを促す掲示に利用した後は、催事の告知などにも活用できます。



抗菌しおり



わんにゃんプッシュ
直接触れたくないエレベーターや自販機のボタン。
「わんにゃんプッシュ」は可愛い肉球のチャーム(アクリル製)。カバンや社員証のストラップに付けた犬や猫の手が、あなたの代わりにボタンを押します。



スマイルスタンド



たたためマスク

印刷後抗菌ニス加工されたマスクケース。お食事でも外したマスクをたたんでポケットやバッグに収納できます。現在はセカンドバージョンに進化し、マスクの耳掛けをストッパーにせず二つ折りをホールドする仕掛けと、ストラップ用のホールを追加。



コロナ前には無かった各施設入退室時の検温、手指のアルコール消毒。便座用の除菌スプレー、次亜塩素酸水による共有テーブルの除菌など、社員一人ひとりの自衛とともに「感染を拡げない」新たな習慣がすっかり根付き、コロナもゼロ、インフルエンザもゼロを継続しています。油断せず、予防の徹底に努めます。

社員の身を守るために
新型コロナウイルス感染症が、死の恐怖までも覚えさせた本年の3月。日本創発グループでは、全ての社員に、4月、5月に50枚ずつ不織布マスク、携帯用ハンドジェル(2ml)24包が支給された。一方働き方のほうでは、生産現場は、機械を止めることができないため、マスク・手洗いの基本予防対策の徹底に努め、管理部門・営業・制作などデスク作業の社員には、時差出勤による密対策を実施。また、週2〜3日の割合で自宅待機を実施。可能な社員は、リモートワークも積極的に進められた。機密保持の契約を交わし仕事を受注している当社では、作業データや原稿の外部への持ち出しを厳しく管理しているため、リモート化できない制限もあり、半数以上の社員は、事業所でビフォーコロナと同様に業務を遂行しました。緊急事態宣言以降は、社員全員が毎日の検温を実施し、発熱者発生時の対処フローも準備し危機に備えています。

特集 コロナ禍で考えた2

「晴朗塾」の有志に話を聞いてみた 「晴朗塾」座談会

コロナにマケズ、社会に、会社に役立つ商材を開発した

各部署の中堅・リーダーが2年の任期で任命され活動する晴朗塾。オプザーバーを社長の廣瀬が務め、メンバーは、日経印刷について「自由に、前向きに」話し合う機関として、これまでに行動規範の作成や社員同士の横のコミュニケーションを推進するイベントの開催、業務や職場の環境改善活動などを行ってきました。

今年8代目となる晴朗塾のメンバーは13名。年5回の開催予定でスタートした2020年でしたが、新型コロナウイルスの直撃を受け、今年の活動は断念か……、と思われた中、新商材を開発するなど、活動自粛下でできることを実行していました。8代目塾長の仲侯と3名の塾生にお集まりいただき、話を聞いてみました。

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令され、生活維持に不要な外出の自粛と感染予防への協力を要請されました。皆さんの働き方や日常生活ではどのような変化がありましたか？

紙谷 印刷部は、印刷機を止めることができないので、働き方自体変わることがありませんでしたが、感染してしまうと事業所を閉鎖しなければいけないので、作業中のマスクはもちろん、感染予防は徹底しました。日常生活でも外出を控え、飲みに行くことも無くなりました。家で過ごす時間が多くなったので、ストレッチをするなど、体を動かすことを意識するようにはなりましたね。

寺田 私は緊急事態宣言が出されてから2カ月ぐらいいリモートワークをさせていただきました。同じ部署の他のメンバーは、自宅待機（特別休暇）や時差出勤で対応する人もいました。リモートワークでは、直接コミュニケーションができないため、

web会議でやりとりしました。最初はコミュニケーションに戸惑いでしたが、最終的には仕事がこなせるようになりました。プライベートでは2月の後半から友人とは会っていないですね。家にいる時間が増え、コロナ前はお店に頼んでいたことも自分でやるようになりました。

中島 営業の働き方は大きく変わりました。コロナ前はお客さまのところへ足を運ぶのが基本的なスタイルでしたが、4月、5月あたりからはお客さまのところへ行けず、行くにしてもお伺いを立てないといけないという状況になりました。

仲侯 確かに「不要な来社はお控えください」「来社されるなら面白い提案を持って……」という世の中の風潮を感じていました。実際お客さまも社員の半数がリモートであったり、自宅待機されたりと、不在のケースも多く、急を要するか、重要でなければ訪問を控えざるを得ない状況でした。

中島 私の部署では1日出社したら翌日は自宅待機となり、出社日は週に2〜3日。皆さんと同じように飲みにも行かなくなったのですが、部署に配属された新人の歓迎会もまだできていません。これまでと同じようなコミュニケーションが取りにくいなと思いますね。

余談ですが、今年の新人は、「密を避けた研修」のため小グループに分かれていて、しかも「新人研修の打ち上げ」も行われていけませんので、新人同士もなかなか同期の関係を深められていないようです。（※1）

コロナ禍でさまざまなイベント、営業活動が自粛される中、晴朗塾の活動はどのように行われたのですか？

仲侯 今年は年5回の開催を予定していましたが、2月の第1回は開催できたのですが、4月の第2回は中止になりました。ただ、コロナ禍でも何かしているということ

もあり、6月の第3回はweb会議という形で5つの拠点を結んで開催しました。

web会議ではどのような話し合いが行われたのですか？

中島 社長の廣瀬さんにも相談しながらコロナ禍で何ができるのかということメンバーで話し合い、三つの案が出てきました。一つ目は「会社の売上につながるような、世の中のニーズに合った商材を考えること」、二つ目は「地域貢献ができるような取り組みを考えること」、三つ目は「Withコロナの働き方を考えながら、新しい行動規範を考えてみる」というものです。

「たためマスク」や「スマイルスタンド」は、一つ目と二つ目の案のミックスということになりますね？

仲侯 そうですね。たためマスクは6月の会議の段階で私の中で既に大まかな構想はできていて、塾内の

※1：座談会の2週間後、新人フォローアップ研修が行われ、半年ぶりに顔を合わせました。

スマイルスタンド…リモートワークで笑顔に見える位置にスマートフォンを素早くセッティングできるアイテムです。サイドのポケットに付箋やメモなどの小物を収納、穴にはペンが差せます。



意見を聞きながらまとめていったのですが、社会貢献はもちろん、家族を守る、仲間を守るといった意義に強く背中を押されていましたね。なので世の中のニーズが変わらないうちに急ぎで作成を進めていくことになりました。

商材を〇から作ることは、前例がなく、初めてのことですが、どんな難しさがありましたか？

仲俣 6月頃というのはちょうど世の中でマスクケースの必要性が認識され始めた時期だったと思います。世に出ている多くのケースはPP（ポリプロピレン）製のものでした。日本創発グループでもPP製の抗菌マスクケースを商材として取り上げていましたよね。そんな中でたためマスクは紙製で日経印刷の強みを活かしながら作成できるものだったので、営業ツールとして使えるという感覚は初期段階から持っていました。周囲の先輩方にも協力していただき、企画書、サンプル、LP（ランディングページ）の作成と、比較的順調に進めることができました。



8代目晴朗塾 塾長
第三営業部 第1課
仲俣 岳樹



たためマスク

中島 私は、スマイルスタンドを担当し、「あったらいいもの」を追求しました。見積もり在りきのいつもの仕事とは勝手が違い、ニーズが先行し、予算度外視の商品になってしまいました。完成までの費用から見積もった売値は現実感のないものになってしまいました。

仲俣 たためマスクは、各方面でご好評を頂き、9月末には商材として実売に漕ぎつけることができました。それ以上に大きかったのは、顧客管理のカルテにたためマスクに関する内容が500件ほど登録されたことです。客先へ足を運びにくい



8代目晴朗塾 塾長
第四営業部 第3課
中島 賢人

状況下で非常に有効な営業ツールになったのではないかと思います。

初めての商材開発での気付きなどありましたら教えてください。

中島 印刷会社の営業はやはり受注生産という側面が強かったのですが、どんなものが売れるのかということ逆の視点から考えられたというのは、とても新鮮で良い経験になったと思います。次にチャンスを迎えたら、首尾よく展開します。

紙谷 たためマスクが完成して印刷部の希望者にも配布したのですが、すごく人気があったので、一般消費者の目線で見ても魅力的な商材だったのだと思います。営業さんが普段どういう視点で営業しているかを間近で見られたことは勉強になりましたね。

寺田 日本創発グループでいろいろなことができることは知っていたのですが、日経印刷でもこういったアイデア商品が作れるというのは面白いなと思いました。

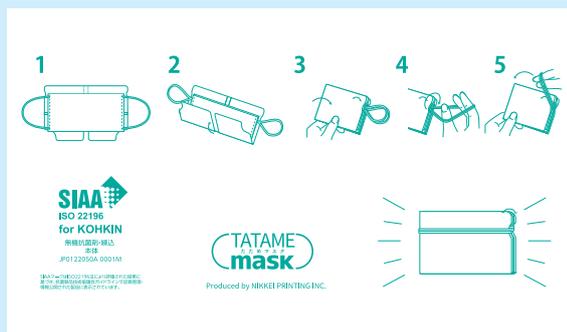
今後の晴朗塾の活動は？

仲俣 10月末に次の会議があるので



8代目晴朗塾 制作部 制作課
寺田 奈緒美

ですが、まずは、これまでの活動を振り返りたいと思います。その上で来年12月まで任期があるので、このメンバーだからできることを改めて話し合う予定です。今年に入り、これまではない速さで世の中の状況が変わっています。各部署で働いている皆さんもこれまで感じなかったような気付きが出てくると思うので、そういった意見を吸い上げながら、会社にとって良い影響が出るような取り組みを「前向きに」考えていきたいと思っています。



たためマスクの使い方



8代目晴朗塾 印刷部 G2印刷2課
紙谷 征道

グリーンプリンティング (GP) 認定とは?



GP認定制度は、日本印刷産業連合会が認定機関となって、日印産連「各印刷サービス」グリーン基準に基づき、客観的な証明によって認定され、認定マーク (GPマーク) が表示できる制度です。
印刷工場・資機材・印刷製品のそれぞれに対する認定制度によって成り立っています。

SDGs (持続可能な開発目標) とは?

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成された持続可能な開発目標。
2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に示された、2030年までの国際目標。

製造資本

財務資本

自然資本

アウトプット

書籍
官公庁白書
企業レポート
企業パンフレット
製品カタログ
製品パンフレット
各種テキスト
各種試験問題
DM
ノベルティ
社内啓発ツール

お客様の価値向上支援

SDGs 推進
各種ツール作成
セミナー開催

アウトカム

社会課題解決

- 安全な生活環境の確保
- 廃棄物リサイクル率 100%

企業価値の向上

- 安全で働きやすく、働きがいのある環境の提供
- 取引先との対等で公正な関係

SDGs 目標達成サポート



用紙価格の高騰

コンプライアンス
遵守

ライフスタイルの
変化

DX
デジタルトランス
フォーメーション

リスクの多様化

価値創造モデル

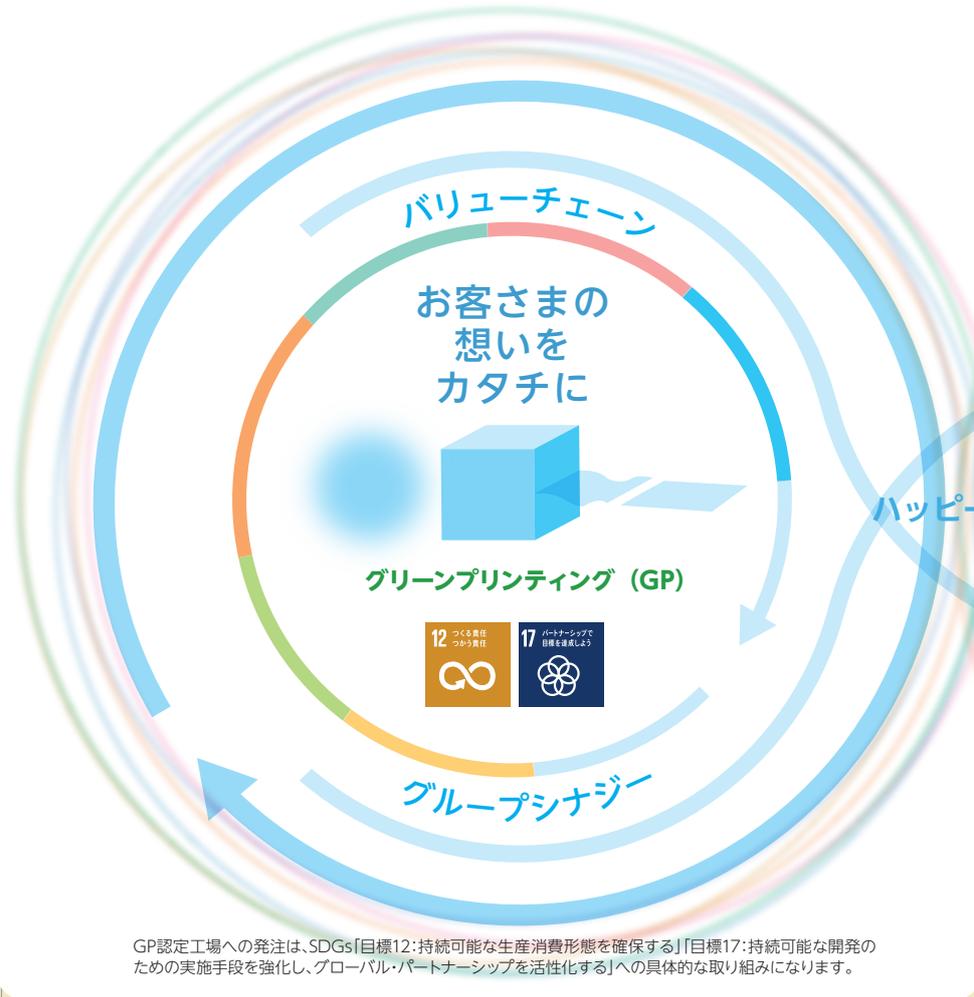
グリーンプリンティング (GP) 認定工場での生産、顧客満足&社員満足を追求するハッピーチェーンを遂行し、国際目標であるSDGs (持続可能な開発目標) 達成のパートナーとして製品を創出。社会とともに持続的な成長を果たしたいと考えています。

インプット

人的・知的資本

社会・関係資本

価値創造の基盤となる日経印刷の強み



GP認定工場への発注は、SDGs「目標12:持続可能な生産消費形態を確保する」「目標17:持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」への具体的な取り組みになります。

事業環境

COVID-19
新型コロナウイルス感染症

地球温暖化
気候変動
異常気象

少子高齢化

労働環境における健康・安全への配慮の要請

日経印刷では、お客さまのご注文を伺う窓口になる営業から、できあがった製品をお届けする配送（生産管理管轄）までの工程があります。それにそれぞれの工程に対応した職能別の組織が「お客さまの想いをカタチに」するため、工程間のルールを遵守し「お客さまの想い」をリレーして行きます。社内各部署がステークホルダーの要求に真摯に向き合い、社会的課題を解決し、安全・安心で環境に配慮した製品を送り出し、持続可能な社会の実現に向け、各種認証を取得し、日々の業務に取り組んでいます。



製 版

印 刷

製本・加工

1. 製品品質の確保
2. 納期の遵守
3. 省エネ対策
4. 環境負荷の低減
5. 労働関連法令の遵守
6. 公正な購買取引の慣行
7. 地域社会への貢献

1. 安全教育の実施
2. 安定した品質の確保
3. 省エネ対応
4. 環境負荷の低減
5. 地域社会との共生

1. 安定した製品の供給
2. 加工技術の向上
3. 環境負荷の低減
4. 安全教育の実施

認証取得

- ISO 14001:EMS
- ISO 27001:ISMS
(本社・グラフィックガーデン)
- プライバシーマーク認定
(JIS Q 15001)
- FSC® CoC 認証
- グリーンプリンティング工場認定
(グラフィックガーデン)
- Japan Color 標準印刷認証
(グラフィックガーデン)
- Japan Color プルーフ運用認証
(グラフィックガーデン)
- Japan Color マッチング認証
(グラフィックガーデン)

1. スキルコンテスト
(年2回スキルテスト)
2. 徹底した作業の標準化
3. 持続性ある作業改善
4. 省エネ活動
5. 適切な資材、機材の選択
6. 化学物質管理

1. スキルコンテスト
(年2回スキルテスト)
2. ゼロエミッション
3. 労働安全衛生
4. 化学物質管理
5. 持続性のある改善活動
6. 定期的な5S巡回

1. スキルコンテスト
(年2回スキルテスト)
2. 品質管理
3. 労働安全衛生
4. 化学物質管理
5. 省エネ活動・
電気量の見える化
6. ゴミの分別

リスクマネジメント

人材育成

健康経営

環境経営

安全・安心で環境に配慮した製品をお届けするために 日経印刷のバリューチェーン



営業



制作



生産管理・配送

主な課題

1. お客さまへの最善のサービス
2. お客さま満足の追求
3. 公正な購買取引の慣行
4. 委託された情報の適切な管理
5. 環境に優しい製品・サービスの提供
6. 地域社会との共生

1. お客さま満足の追求
2. 製品品質の向上
3. 情報管理・徹底
4. 労働環境の整備
5. 公正な購買取引の慣行
6. 組織の活性

1. 安定した資材調達
2. 環境負荷の低減
3. 公正な購買取引の慣行
4. 品質の維持
5. 無理のない運行管理
6. 物流の効率化

課題実現に向けた主な取り組み

1. お客さまへの迅速・丁寧・柔軟な対応
2. 高品質・高付加価値製品の提供
3. コンプライアンスの遵守・徹底
4. 情報セキュリティー遵守
5. 環境対応製品の提案
6. SDGs推進のサポート
7. 安全運転・省エネ運転の励行
8. 法令遵守・徹底

1. スキルアップのためのセミナー受講や勉強会の開催（年2回スキルテスト）
2. 作業の標準化と手順遵守、品質チェックシートによる品質維持
3. 情報・環境テストの実施（年1回）
4. 社員の改善提案の検討・実施
5. パートナー会社との良好な関係維持
6. SDGs推進のサポート
7. 法令遵守・徹底

1. スキルコンテスト（年2回スキルテスト）
2. 購買先との良好な関係の構築
3. 省エネ活動
4. グリーン調達
5. 安全運転・省エネ運転の励行
6. 法令遵守・徹底

バリューチェーンを支える基盤

コーポレートガバナンス

コンプライアンス

環境配慮
(省エネルギー・ゼロエミッション・他)

INPUT

水道 **16,416^m**
前年比 **14%↑**

**省エネ効果の高い
冷凍機への検討開始**

水は、全体の約6割を冷凍機で使用しています。冷凍機運用は12年目になり、現在より省エネ効果の高い、ガスではなく電気で冷やす設備への入れ替えの検討を始めました。その影響で使用量が大幅に増加となりました。

	(m)
G2	15,765
浮間	594
CS	57

ガス **346,966^m**
前年比 **29%↑**

機器制御方法の変更で増加

ガス使用量の増加要因としては、印刷関連で設備の増加が行われたことと、冷凍機の設定温度の変更により、下期の冷凍機のガス使用量が増えたことが挙げられます。

	(m)
G2	346,966

電気 **6,930千kwh**
前年比 **2.6%↑**

エネルギー使用効率 UP

メインの菊全8色機3台をUV印刷対応機としたことで、電力消費増となりました。

	(千kwh)
本社	212
G2	5,531
浮間	1,142
CS	45

※事業所略称 G2：グラフィックガーデン 浮間：浮間工場 CS：Creative Square

OUTPUT

リサイクル **3,023t**
前年比 **102%**

リサイクル率 102%
前年比 **1%↑**

ゼロエミッション継続

2019年からリサイクルの定義を変更しました。
①廃止と廃プラを混合し固形燃料化(RPF化)
②廃パレット類(チップ化で紙原料に)
①②とも、工場から出る時点で法律上はマニフェストを発行する産業廃棄物となるため、廃棄物に変更しました。

	(t)
副産物計	3,131

廃棄物 **14t**
前年比 **7%↓**

火災リスクを抑えるために

プラごみと紙ごみの一部をRPF(固形燃料)化していましたが、火災のリスクが高く、廃洗浄布(廃油が浸透した不織布)のRPF化が困難になりました。新たな処理先を探し、現在はフラフ燃料化ができる業者に委託しています。

※フラフ燃料化:破砕した状態の燃料化

	(t)
一般廃棄物	10

CO₂ **3,312t**
前年比 **5%↑**

設備増により増加

CO₂の換算係数は毎年変化します。そのままではめると増減の傾向が把握できないので、比較のため2011年度の係数で算出しています。CO₂の増減には、ガスより電気の影響が大きいため節電が効果的ですが、設備の増加もあり2019年度は5%増加となりました。

	(t)
電気	2,519
ガス	780
水道	3

エネルギー原単位集計

エネルギー原単位(全工場)
生産額 3,657百万円
原油換算 2,092kℓ
0.572kℓ/100万円

前年度原単位改善実績
-1.2% → 12.1%
省エネ努力目標 年平均**1%**

排出係数	電気:東京電力2011年度排出係数(0.000375t-CO ₂ /kwh)	水道:東京都水道局排出係数0.2kg/m ³
	ガス:環境省 温室効果ガス算定・報告マニュアルより 千Nm ³ ×単位発熱量(45)×排出係数(0.0136) ×44/12	副産物計:リサイクル計 + 廃棄物計 リサイクル率:リサイクル計 + 副産物計

FSC 認証製品をお客さまへ



責任ある森林管理のマーク

FSC® CoC認証とは

FSC (Forest Stewardship Council®: 森林管理協議会) には、森林の管理を認証する「FM (Forest Management: 森林管理) 認証」と、認証された森林から産出された木材の適切な加工・流通を認証する「CoC (Chain of Custody: 加工流通過程の管理) 認証」があり、認証材以外のものが混入しないよう、各加工・流通工程で適切に管理された製品には、その証としてロゴマークがつけられます。

企業が経済活動を行う上で、電気やガスといったエネルギーを使用し、製品・サービスを世に送り出すとともに、廃棄物を排出することは必然です。当社では企業としての社会的責任を果たすため、環境マネジメントシステムを構築し、省エネ、廃棄物の削減と再資源化、環境法規制の遵守等に取り組んでいます。

従業員とともに

会社を支える従業員が働きやすい職場であることが安定した事業継続の要だと考えます。さまざまな人事制度のほか、人材育成の一環として資格取得支援なども行っています。

人事データ



	女性	男性	合計
平均年齢	34.3歳	41.8歳	39.3歳
平均勤続年数	8.6年	16.1年	14.1年
新卒採用者	9名	7名	16名

正社員と契約社員合わせて412名、パート従業員も合わせると460名が働いています。毎年新卒社員も入社しており、若い社員の活躍が多い職場になっています。



各部署で勤務効率化を目指し、不要な残業時間を減らすよう取り組んでいます。また、出産・育児休暇などの取得も年々増加しており、ライフイベントを迎えても長く働き続けたいという社員が増えてきています。

お客さまとともに

持続的に健全な事業を継続するために、「お客さまの声」に耳を傾けることで時流を捉え、ニーズを考慮した営業活動に取り組んでいます。

セミナー・工場見学会開催

CSRセミナー一覧

2018年CSR/ESG情報開示 トレンド 3/7
統合報告書のマテリアリティと
中期経営計画の連動 9/19

39名/31社

30名/28社

SDGsをめぐるリスクと機会
4/25

47名/35社

合計 116名/94社



グラフィックガーデンセミナー一覧

早春印刷工場見学会 2/14

50名/22社

初秋の印刷工場見学会 9/5

25名/13社

InDesign マイスターが教える
DTPの効率・品質アップ術 4/18

24名/25社

色の見える・伝えるを科学
する 10/24

30名/25社

初夏の印刷工場見学会
6/20

61名/26社

本年最後の印刷工場見学会
11/14

37名/17社

グラフィックガーデン・ギャラリー
OPEN! 印刷工場見学会 7/18

35名/20社

合計 263名/127社



CSR報告書の制作業務の中で得た経験やネットワークを活かし、お客さまに情報発信する場として定期的にCSRセミナーを開催しています。また、法人を対象とした工場見学会や印刷に関するセミナーを開催し、幅広い層のお客さまにご来場いただきました。

パートナー会社とともに

日経印刷は、パートナー会社の皆さまとコミュニケーションを図り、良好な関係を構築していくことで、品質、納期、環境保全の維持向上にともに取り組んでいます。

パートナー会社への依頼



パートナー会社の合計 200社以上

制作関連	約50社	印刷関連	約60社
製本関連	約70社	その他 配送・発送関係	約20社

当社は、全生産の約50%をパートナー会社に委託しており、協業はなくてはならないものといえます。現在お取引をさせていただいている会社数は、製造関連のほか、配送・発送関連のパートナー会社も合わせると200社以上に上ります。「お互いに相談しあえる関係」を目指し、企業理念の「公正な購買取引の慣行」のもと、全てのパートナー会社に対して、公正・透明な発注・購買活動を心がけています。

地域・社会とともに

グラフィックガーデンでは、インターンシップの受け入れや、学生・生徒さんを中心にもものづくりの現場を見学していただく工場見学を行っています。

工場見学の受け入れ

合計 979名



小学校 949名15校 中学校 5名1校

板橋区関連 19名1件 その他学校 6名1校

近隣の小学校の社会科見学をはじめ、多くの学校や団体さまの工場見学を受け入れています。DTPのデモや、印刷の原理・製本の工程についての説明を行い、その後実際の製造現場を見学します。また、特別支援学校や民間の障害者就労支援施設の皆さまの見学会、専門学校の新入生さんへのビジネスインターンシップの受け入れも行っていきます。

企業情報

日経印刷の情報

日経印刷ウェブサイト <https://www.nik-prt.co.jp/> の各コンテンツをご覧ください。

個人情報保護方針

<https://www.nik-prt.co.jp/company/privacy.html>

品質方針、環境方針、ISMS基本方針

<https://www.nik-prt.co.jp/company/social.html>

認証取得

ISO 14001:EMS

ISO 27001:ISMS(本社・グラフィックガーデン)

プライバシーマーク認定(JIS Q 15001)

FSC® CoC 認証

グリーンプリンティング工場認定(グラフィックガーデン)

Japan Color 標準印刷認証(グラフィックガーデン)

Japan Color プルーフ運用認証(グラフィックガーデン)

Japan Color マッチング認証(グラフィックガーデン)

企業概要

日経印刷株式会社

代表者 代表取締役社長 廣瀬 智

本社所在地 東京都千代田区飯田橋 2-15-5

電話 03-6758-1001

創業 1964年10月

資本金 8,000万円

売上高 111億円(2019年12月期)

従業員数 460名(2019年12月現在)
(パートアルバイト含む)

業務内容 企画・デザイン、編集、ライティング/DTP、出力等プリプレス工程全般/オフセット印刷(枚葉)/プリント・オン・デマンド/製本一式/表面加工/紙器・加工/仕分・梱包・発送/CD、DVD等メディア制作/Web制作/電子出版/白書製造請負、出版

編集方針

日経印刷はこのCSRレポートを通して「事業活動」、「社会」、「環境」の観点でステークホルダーの皆さまの期待に応えるために取り組んでいる活動を開示することにより、当社をご理解いただき、またステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを深め、「人の想いをカタチに」する情報加工産業の価値向上に役立てていくことを目的にしています。

また、自社のCSRレポート作成を通してCSRを学び、レポート、報告書作成のノウハウを蓄積することで、お客さまにより良いサービスをご提供することを目指しています。

報告対象組織

日経印刷株式会社

報告対象期間

原則として、2019年度(2019年1月~2019年12月)の活動を対象期間としていますが、一部2020年のデータも含まれています。

報告対象分野

本レポートは、日経印刷の事業活動、社会・環境に関する取り組みを対象としています。

ご意見・お問い合わせ

日経印刷のCSRへの取り組みについて、ご意見・ご感想をお寄せください。CSR活動やCSRレポートの改善に生かしてまいります。

発行月 2020年12月

所轄部署 日経印刷株式会社 管理部門 人事総務部

連絡先 TEL 03-6758-1001

FAX 03-3263-5814



新しい生活様式とともに

新型コロナウイルス感染症に罹患された皆さまおよび関係者の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症への対応が長期化するなか、医療現場をはじめ、治療や感染拡大防止にご尽力されている方々に、心より感謝と敬意を表します。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、4月には政府による緊急事態宣言も発令され、私たちの生活様式、社会活動が制限され大きく変化する事態となりました。

私どものビジネスのあり方も大きな影響を受け、全てのステークホルダーの皆さまも巻き込み、新しい生活様式とともに新しいビジネスのあり方を求められました。

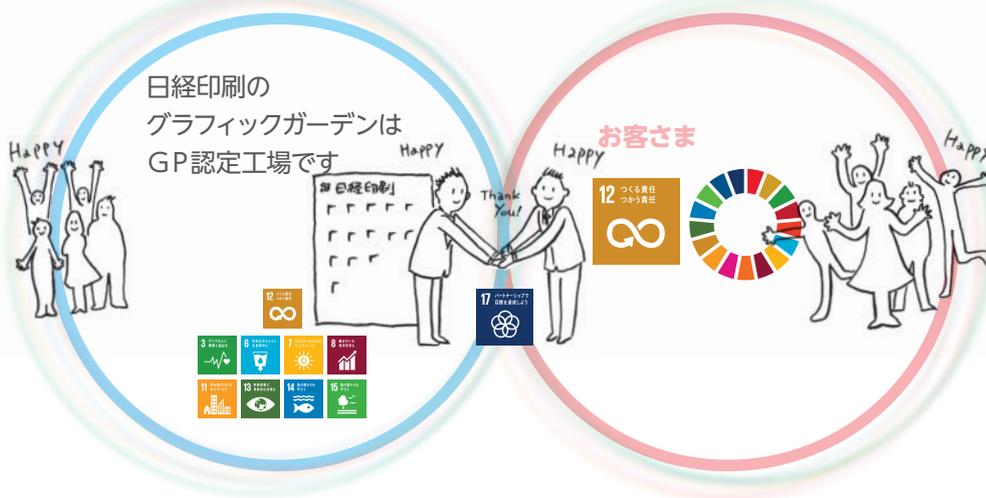
CSR活動においても同様でした。収益を上げることは企業の重要な使命ですが、今年ほど社員と家族の安全と安心を考えたことはありませんでした。早くから作業効率を高めるための改善体質が定着している日経印刷ならではの「無駄を省く」精神が活かされ、働き方への工夫、お客さま・社会への貢献を念頭に活動を始めました。少しでもステークホルダーの皆さまが抱える不安を軽減するために、日本創発グループ各社の豊かなリソースとコラボレーションを図り、市場が求めるサービスの提供へ全力で取り組んでいます。

日経印刷は、お客さまに必要とされる企業であり、お客さまとともに成長し続ける企業として努力を継続していきます。

代表取締役社長
廣瀬 智



グリーンプリンティング(GP)認定工場「グラフィックガーデン(G2)」から事業活動で必要とされる印刷サービス・印刷製品を調達すると、お客さまがSDGsで目標とする「目標12:つくる責任 つかう責任」に向けた具体的な取り組みとして実行したことになります。



グリーンプリンティング (GP) 認定とは？

GP認定制度は、日本印刷産業連合会が認定機関となっており、日印産連「各印刷サービス」グリーン基準に基づき、客観的な証明によって認定され、認定マーク(GPマーク)が表示できる制度です。

印刷工場・資機材・印刷製品のそれぞれに対する認定制度によって成り立っています。

GP 認定とSDGs



GP認定は、地域住民から地球規模での環境対応が基準となっています。この基準は、随時見直され、労働安全衛生、緊急時対応の基準の追加などが行われています。SDGsで掲げられた「目標12:持続可能な生産消費形態を確保する」に対応し、つくる側の要件を満たすことができます。



SDGsとは

「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称です。エス・ディー・ジーズと呼ばれます。SDGsは2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた国際目標です。17の大きなゴールと、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。

持続可能な社会を目指す世界共通目標は昨年からの企業レポートのトレンドとして取り上げられています。



印刷物に GP マークを表示するには？

1. GP認定工場での印刷を行い
 2. 印刷資材の環境配慮について一定水準以上を満たす場合
- 1・2を満たし、工程の環境配慮が全工程か否か、印刷資材の配慮水準がどのレベルか、この組み合わせによってワンスターからスリースターまで3種の表示があります。スターの数が多いほど環境配慮の度合いが高いことを示します。



GREEN PRINTING JFPI F-D10008 グラフィックガーデン 本工場は、環境に配慮したGP認定工場です。

GPマークは、印刷製品の製造工程と印刷資材が環境配慮されていることを示します

認定工場の認定番号

認定工場名

環境配慮の度合いを3段階で表示



日経印刷

検索